教育委員会会議の概要（令和６年７月臨時会）

◆　日　　時　令和６年７月８日（月）午後２時００分から午後６時０７分まで

◆　場　　所　教育局　第１会議室

◆　出　席　者

教　育　長	天 野　　元	出席
委員・教育長職務代理者	花 渕　　浩 司	出席
委　　員	川 又　　政 征	出席
委　　員	後藤　由起子	出席
委　　員	山 田　　理 恵	出席
委　　員	庄 司　　弘 美	出席
委　　員	長谷川　真里	出席

◆　会議の概要

１　開　　会

２　議事録署名委員の指名　　川　又　　委　員

３　協　議　事　項

（１）令和７年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書の採択について

（教育指導課長、教育センター担当指導主事　説明）

教　　育　　長　本日の協議事項は、令和７年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書の採択についてである。

まず、本日の協議内容について、教育指導課長から説明を願う。

教育指導課長　最初に、本日配布している協議事項資料の訂正についてご説明する。資料番号の記入が漏れていたものがあり、宮城県教育委員会から出されている「教科書の採択に係る基本方針」が別紙２、「令和７年度使用教科用図書採択基準【中学校　各教科】」が別紙３、「令和７年度使用教科用図書採択基準【中学校　特別の教科　道徳】」が別紙４、「令和７年度使用学校教育法附則第９条の規定による教科用図書（一般図書）採択基準【特別支援学校及び特別支援学級】」が別紙５となるので追記願いたい。

また、「令和７年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書の採択方針」の右上に「別紙」と記載されているが、これを「別紙１」に訂正いただくとともに、「中学校　教科書　発行者一覧」の右上に「参考」と記載されているが、これを「別紙６」と訂正いただきたい。

それでは、教科用図書の採択について説明する。

今年度は、令和７年度に使用する「中学校用教科書」、特別支援学校、特別支援学級で使用する「一般図書、文部科学省著作本」の採択を行うこととなるが、本日を含む４回の協議においては、これら教科用図書のうち、中学校用教科書、特別支援学校、特別支援学級用の一般図書、文部科学省著作本についてご審議いただき、７月 26 日の定例教育委員会で、それぞれの採択をお願いしたいと考えている。

次に、本日ご審議いただく中学校で使用する教科書の採択について説明する。

今年度においては、令和５年度検定に合格し、令和６年４月、文部科学省発行の「中学校用　教科書目録（令和７年度使用）」に登載された全ての教科用図書の中から、令和７年度に中学校で使用する教科書を採択する。この中学校並びに特別支援学校、特別支援学級においては、７月１日に、それぞれ「令和６年度仙台市立義務教育諸学校教科用図書協議会」から、教育委員会に対し、採択対象となる教科用図書の特長について協議した結果の報告が行われた。

本日以降の審議に当たり、この協議会報告書や調査研究委員会報告書などの内容も参考にしていただく。

大まかなスケジュールとして、本日は、中学校用教科書の理科、音楽（一般）、音楽（器楽合奏）、美術、道徳について審議し、７月 10 日、７月 12 日、７月 22 日に、残りの中学校用教科書と特別支援教育関係の教科書について審議いただく。

教　　育　　長　今の説明について、何か質問等があればお願いする。

（質疑なし）

教　　育　　長　本日は、今年度の採択対象となる中学校用教科書５種目についての協議を行う。協議の適正さ、公正さを確保する観点から、委員の皆様に率直なご意見を述べていただくため、本日の協議の発言においては、お手元の対応表に従い、発行者名ではなく、Ａ者、Ｂ者と呼ぶようお願いする。なお、Ａ、Ｂの記号は任意に振ったものであり、発行者番号順ではないので、ご了承願う。

本日、使用する資料であるが、別紙１～６及び別冊１～３以外の資料については、採択手続終了まで非公開としている。そのため、傍聴においでの皆様には、これらの資料を配布しないこととしている。教育委員会議事録が確定次第、当該資料を市政情報センターにおいて閲覧できるようにするので、ご了承願う。

なお、資料６及び資料７の中学校用及び特別支援学校用の教科書目録（令和７年度使用）は、文部科学省のホームページに、別冊１、別冊２、別冊３は宮城県教育委員会ホームページに、同一の資料が掲載されている。

それでは、改めて、事務局から使用する資料について説明願う。

教育指導課長　それでは、本日から審議で使用する資料について説明する。

はじめに、別紙１は、６月の臨時教育委員会で議決いただいた「令和７年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書の採択方針」である。

次に、別紙２は、宮城県教育委員会から示された「教科書の採択に係る基本方針」である。

次に、別紙３は、同じく宮城県教育委員会から示された「令和７年度使用教科用図書採択基準【中学校　各教科】」である。

次に、別紙４は、同じく宮城県教育委員会から示された「令和７年度使用教科用図書採択基準【中学校　特別の教科　道徳】」である。

次に、別紙５は、同じく宮城県教育委員会から示された「令和７年度使用学校教育

法附則第９条の規定による教科用図書（一般図書）採択基準【特別支援学校及び特別支援学級】」である。

次に、別紙６は、「中学校　教科書　発行者一覧」である。

次に、別冊１は、宮城県教育委員会から示された「令和７年度使用　教科用図書採択選定資料　中学校用」である。

次に、別冊２は、同じく宮城県教育委員会から示された、「令和７年度使用　学校教育法附則第９条の規定による教科用図書（一般図書）選定資料」である。

次に、別冊３は、同じく宮城県教育委員会から示された「令和７年度使用　教科用図書（中学校）選定資料　社会科（歴史的分野・公民的分野）補助資料」である。

別冊１、別冊２の資料は、宮城県教育委員会が種目ごとに全発行者の特長をまとめたものである。また、別冊３は、中学校の歴史・公民の教科書について、別冊１の選定資料に加え、各教科書の特長等を一層明確にし、記載内容やその分量を比較対照できるように、宮城県教育委員会が作成した補助資料である。

次に、別添１は、「令和７年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書にかかわる調査研究報告書」である。この資料は、中学校の校長、教頭らで構成された調査研究委員と、主幹教諭、教諭で構成された専門委員が、専門的見地から各種目の教科書の調査研究を行い、報告としてまとめたものである。この報告書には、宮城県教育委員会の採択基準及び学習指導要領に沿った仙台市教育委員会の採択の観点に基づく調査研究を、１者につき１ページでまとめており、各教科書の特長を観点に沿って、網羅的に示している。

次に、別添２は、「令和７年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書協議会報告」である。この資料は、有識者、保護者代表、校長から構成された仙台市立義務教育諸学校教科用図書協議会で、それぞれの学校で使用する教科書の特長をまとめたものであり、協議順に記載してある。

次に、資料１は、「令和７年度使用　教科書見本本表紙記号・発行者対応表」である。本日の協議の発言においては、この対応表に従い、発行者名ではなく、Ａ者、Ｂ者と呼ぶようにお願いする。

次に、資料２は、「令和６年度　仙台市立中学校使用教科書発行者一覧」である。

次に、資料３－１～５は、「令和７年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書協議会　議事録」である。

次に、資料４は、「令和７年度使用　学校教育法附則第９条の規定による教科用図書（一般図書）一覧（案）」である。

次に、資料５は、「令和７年度使用　仙台市立特別支援学校及び特別支援学級教科用図書　文部科学省著作教科書（中学部用）一覧」である。

次に、資料６及び７は、中学校用及び特別支援学校用の「教科書目録（令和７年度使用）」である。

そのほか、参考資料として、「令和７年度使用教科用図書の採択希望に関する資料」、「令和６年度教科書展示会アンケート」、「各団体からの要望書」がある。さらに、各種目の教科書と編集趣意書も机上に用意しているので、併せてご参照いただきたい。

教　　育　　長　ただいまの事務局の説明について、何か質問等はあるか。

（質疑なし）

教　　育　　長　協議に入る前に、これからの進め方についてお諮りしたい。

初めに、協議の進め方であるが、まず事務局から学習指導要領における目標や協議会報告における各発行者の特長等について説明を受けた後、協議を行うこととする。

教科書見本本や報告書等の各種資料については、事前に事務局がお届けし、既にご覧いただいていることから、この場では閲覧の時間を設定せず、協議に十分な時間を取るようにしたいと考えている。

協議については、はじめに各委員から、仙台市の採択方針の観点を踏まえて、協議会報告書や調査研究委員会報告書等を参考にしながら、各発行者の教科書の特長や優れたところについて、１発行者につき１分程度ご発言をいただきたい。

各委員から一通りご意見をいただいたところで、４者以上の発行者がある種目については、各委員から推薦する発行者を３者挙げていただき、推薦数の多い上位３者に絞って議論を深めたい。発行者数が３者以下の種目については、推薦の必要はない。

このような形で絞り込んだ発行者の中から、再度、仙台市の採択の観点に沿ってご意見をいただき、議論を深めながら、全員の合意の下、１者に絞り込んでまいりたい。

最終的には、本日の議論を踏まえ、７月 26 日の定例教育委員会で確認の上、採択に係る議決を行いたい。

以上の進め方について、ご異議ないか。

（異議なし）

教　育　長　ご異議ないと認めるので、このように進めたいと思う。

では、中学校用教科書について、本日以降このような進め方で協議を行いたい。よろしくお願いする。

【理科】

教　育　長　それではまず、理科についての協議を行う。事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いする。

教育指導課長　担当指導主事からご説明する。

指導主事　中学校理科では、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。

（２）観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

（３）自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

以上のことを目標としている。

協議会において取りまとめた中学校理科の全発行者の特長は、別添２の３、４ページにお示ししている。

主な特長について、まず、Ａ者は教科書のはじめに探究の学習の進め方が示されているとともに、様々な場面でキャラクターの会話をきっかけにして言語活動が充実するように工夫されているということである。

次に、Ｂ者は、豊富な観察、実験場面を中心とした学習内容で構成され、実体験を通した探究活動をすることにより、理科における資質・能力の育成につながるように配慮されているということである。

次に、Ｃ者は、課題や疑問から課題解決の方法を考え、仮説を立てて実験、考察、

分析する流れが明確に示されており、言語活動につながるように工夫されているということである。

次に、D者は、課題をつかみ、観察や実験の結果から考察するという学習の流れを示すことで、見通しを持って学習に取り組み、主体的な学びにつながるように工夫されているということである。

次に、E者は、学習の段階が分かるように見出しを示しており、生徒が学びの過程を意識することで、主体的・対話的で深い学びにつながるように配慮されているということである。

教　育　長　ただいまの事務局の説明について、何かご質問あるか。

（質疑なし）

教　育　長　それでは各発行者の教科書見本本に順番に意見を述べていただきたい。

花　渕　委　員　A者については、身の回りの自然現象や生徒の実体験などを生かすことができる学習が取り上げられていて、日常生活と関連付けて体験を重視する内容になっていると感じた。

続いて、B者は、「探Q実験」、それから「探Q実習」というのもある。ここに他者との意見交換、イラストを使って友達同士で話し合う場面が入っていて、それを参考にしながら自分の考えをまとめていく流れになっている。この中で、自分の考えの変容であったり、深まりなどを実感したりできるように工夫されていると思った。

続いて、C者は、「問題発見レッツスタート！」という項目があり、その中で小さな疑問や気付きを学びの導入として取り入れていて、子供たちがその後の探究活動、探究の過程にスムーズに入っていくことができる作りになっていると感じた。

D者は、主体的な学びができるように、「結果から考えよう」「話し合おう」の場面が設定されていて、その中で対話的な学びを促すように工夫がされていると感じた。

E者は、「要点をチェック」、「要点と重要用語の整理」「基本問題」というような小さなステップを踏んでおり、基礎的・基本的な知識を深め、その中から確実な定着を図れるような工夫がされていると感じた。

川　又　委　員　A者は、「理路整然」というコーナーにおいて科学的な考え方、論理、記録、実験の仕方、仮説の立て方などの様々な留意点、注意点が記述されていて、充実している。それから、自然、動植物に関しての大きな写真や図版、イラストが非常に分かりやすく掲載されている。また、学習内容に関して身近な場面で手づくりの装置で自然観察ができるような例が数多く取り上げられている。

次に、B者は、科学に関してのコラムが充実している。「部活ラボ」「お料理ラボ」「お仕事ラボ」「防災減災ラボ」というものがあり、生徒の日常的な意味での科学に関する興味関心を深めるような題材が多数提示されている。それから、「探Qシート」「探Q実験」というような項目で、実験に関しての計画や手順、考察の仕方を明確に示している。また、いろいろなところに、観察実験上の注意安全のマーク、例えば「保護眼鏡」や「やけど注意」というようなものが取り入れられており、安全な学習に配慮されている。

次に、C者は、特長的なこととして、表紙に中学生の生徒が掲載されていて、生徒が持つ疑問や考察、興味というものが表紙に書かれている。生徒から見た疑問、探究というものを重視した教科書にしようという試みだと思う。内容的にはあまり詰め込まずに、紙面に余裕を持たせていろいろな図版、文章、写真等が配置されている。そ

れから、「科学の本だな」として、科学に関してのいろいろな随筆、書籍、科学的な偉人、科学者の書籍の紹介が各学年の始めに掲載されている。

Ｄ者は、様々なコラムがあり、生徒の興味を引く記事が多数ある。「科学のあしあと」「Science　Press」「くらしの中の理科」というようなコラムが多数ある。学習指導に関しては、単元の最後にいろいろな問題があり、多くの場合、習熟問題があるが、この教科書ではそのほかに「読解力問題」というページがあり、言語による思考、科学的な思考に重点を置いた設問がされている。Ｄ者についても、紙面構成は、適度な空白があり、読みやすい紙面で、読みやすいフォントが使用されている。

Ｅ者は、巻末の資料として、道具の使い方や関連する算数・数学、ノーベル賞を受賞した日本人科学者、科学的な探究の歴史が非常に興味深くまとめられている。それから、「発展」という項目があり、高校での学習との関連性や発展性というものが記述されている。元素の周期表が掲示されているが、その中では各元素の応用として、身近な製品・商品など、身近なものが多数分かりやすく提示されている。

後　藤　委　員　Ａ者は、方法、結果、考察または気付き、課題、仮説という形で、理科的な思考力を育むように配慮されていると感じた。巻末の「思考をさらに深める」では、とても内容が充実しており、発展的な学習が展開されるように配慮され、主体的な学びにも対応できると思う。「理路整然」で、ひらめきや応用的思考を提案しており、理科が苦手な生徒にも興味を持たせられるような題材を取り扱い、理科の楽しさを感じさせる工夫があると思った。

Ｂ者は、「学ぶ前のトライ！」と「学んだ後のリトライ！」という形で、学習の前後で自分の考えがどう変化したのかというのを考えさせる工夫があった。また、身近な出来事を理科的な視点で捉えることで、生徒たちの興味を引く工夫も多く見られた。コラムも多く、関心を持って読める内容だった。巻末の「探Ｑシート」で、自分の意見をまとめることができ、これから必要とされる学習方法であると感じる。発展的な学習にも十分に対応できる内容だと思った。

Ｃ者は、実験、観察と組み合わせて学びを深めていくことができる工夫があり、説明がとても分かりやすいと思った。入試の頻出問題を担っている重要な単元をじっくり探究するという形で詳細な解説を加えてクローズアップしているため、子供たちが肝心な要点を見逃さないよう配慮されていると感じた。

Ｄ者は、疑問を提示し、説明し、やってみようと発展的な学習を促している。「章末問題」では問いに対して、教科書の何ページを見返せばよいか指示があり、基礎的な知識の定着、教科書を読み込ませるというような配慮がされていると考えた。

Ｅ者は、章ごとに、「学習前の私」と「学習後の私」で、学習したことを使って何ができるのかを考えさせている。「基礎問題」と「活用問題」で、基礎的な知識の習得から発展的な学習まで取り組めるようになっており、主体的に学ぶ態度の育成に効果があると考えられる。

山　田　委　員　Ａ者について、ほかの４者は、「何々だろうか」、「どうしてそうなるのだろうか」など最初に疑問から入り、そこから解明していくというものが多かったが、この教科書は最初に、全体の流れ、学習内容の説明を示し、そこから、気付き、課題、仮説、計画というところに入っていく流れが丁寧だと思った。それから、「理路整然」というコラムが多く記載されていて、今学ぶものとまた少し違う様々な追加情報を得ることができると思った。それから、最後に補充資料があり、そこが充実していて大変良

いと思った。

次に、Ｂ者は、１つの疑問を最初に提示し、それを実験で解明して次の疑問につなげていくという流れになっている。実験を行う際の注意事項がページの右上にマークで入っているのが分かりやすいと思った。全体的にページが見やすく、読みやすく、写真や図が多く使われていて理解がしやすいと思った。それから、「観察・実験などの技能」「発展」「科学コラム」「サイエンス資料」などの関連資料が多数掲載されている。「つながる学び」で、今まで学んだ内容との関連が示されているのがよいと思った。

次に、Ｃ者は、こちらも１つの疑問を最初に提示し、そこから実験で解明し、次の疑問へつなげていくという流れになっている。「問題発見レッツスタート！」というところから章に入り、質問があり、実験を行い、最後に自分の考えをまとめるという形になっている。全体的に字が大きくて見やすい。また、「まちなか科学」や「歴史にアクセス」「なるほどね！」など読み物が充実している。発展で高校の内容を紹介していて、高校とのつながりが示されている。

次に、Ｄ者は、こちらも１つの疑問から実験で解明して次の疑問へつなげていく流れになっている。これまで学習したことと、これから学習することが、写真を用いて分かりやすく示されている。関連する箇所に、「思い出そう」というマークとともに、前に学習した内容を示しているのがよいと思った。また、「発展」で様々な情報が記載されている。

次に、Ｅ者は、こちらも１つの疑問から、次の実験、次の疑問へとつなげていく流れになっている。「ハローサイエンス」で科学の話題の紹介がある。また、様々な科学者が紹介されている。発展のところで、高校の科学との関連が示されている。また、自然環境や科学技術と私たちの未来というところが多く取り上げられているのもいいと思った。

庄　司　委　員　Ａ者は、補充資料で発展的な内容と興味や関心が高められるような工夫があり、とても良いと感じた。巻末に、「学習内容と仕事」があるのだが、こちらでは学んだことが将来の職業とどのように関連しているのかといったことが示されており、学習意欲の向上にもつながるのではないかと思い、大変良いと感じた。

Ｂ者は、各学年、「防災減災ラボ」など、防災減災に関する内容が取り上げられており、防災教育につながっていると感じた。「みんなで探Ｑクラブ」がそれぞれの単元の終わりにあるが、こちらも探究する力を育むことにつながると感じた。

Ｃ者は、「社会につながる科学」や「防災特集」で、理科以外の教科との関連を図ることができるようになっていて、すばらしいと感じた。また、３学年では仙台市科学館が紹介されていて、大変身近な施設なため、これからますますの利用、活用につながるのではないかと感じた。

Ｄ者は、キャラクターがヒントを出し、自ら考え探究することにもつながる工夫があると思った。理科というと苦手意識を持つ子供も多いと思うが、キャラクターが出てくることで大変取り組みやすいと感じた。防災教育に関するコラムでは、理科と防災のつながりがとても分かりやすく掲載してあり、読んでいていいと感じた。

最後に、Ｅ者は、教科書がほかと比べると小さめのサイズで、大変手に取りやすいという印象である。「ハローサイエンス」や「広がる科学の世界」では、学習内容が自分たちの生活との関わりにも触れ、普段生活の中で科学を意識できるような工夫が

感じられて、大変よいと感じた。

長谷川　委　員　Ａ者は、まとめ、方法、結果、考察というように、段階的に科学的思考を身に付ける方法が明示されていて、科学的な態度を育成するように工夫されていると感じた。また、「学びのあしあと」や「理路整然」のコーナーによって、より主体的で深い学びが実現できると感じた。

Ｂ者は、観察、実験が非常に豊富に紹介されているため、理科への興味を引き出し、観察や実験などに対する態度も身に付くと思った。また、「ひろがる世界」「お仕事ラボ」「深めるラボ」など、発展的な内容も含まれており、主体的かつ発展的な学びが実現できると感じた

Ｃ者は、非常に身近な題材をたくさん取り上げていると感じた。それゆえ、直接体験が可能になるため、より観察実験に主体的に取り組める。よって、生徒の意欲も高まるという特長があると感じた。発展的な内容としてコラムで、科学だけに閉じられたものではなく、社会につながるものとして、様々な内容が紹介されていて、さらに理科への興味・関心が高まると思った。

Ｄ者は、理科の学習の進め方や探究の進め方というページがあることもあり、探究のプロセスがよく分かると思う。また、「科学のあしあと」や「くらしの中の理科」というようなもので、他の教科とのつながりが感じられると思った。

最後にＥ者は、チャレンジ体験が非常に重視されていると感じた。観察、実験に関する基本的技能を身に付けると同時に、「やってみよう」で活動を紹介していることが非常に興味深いと思った。また、「要点をチェック」、「基本問題」など、複数のステップを経て、基本的な知識や技能を繰り返し確認できる工夫があると思った。

教　　育　　長　皆様から各発行者の特長についてご意見をいただいたので、各委員が推薦する発行者を３者挙げていただきたいと思う。花渕委員からお願いする。

花　渕　委　員　Ａ者、Ｂ者、Ｃ者。

川　又　委　員　Ｂ者、Ｃ者、Ｄ者。

後　藤　委　員　Ｂ者、Ｃ者、Ｄ者。

山　田　委　員　Ａ者、Ｂ者、Ｃ者。

庄　司　委　員　Ｃ者、Ｄ者、Ｅ者。

長谷川　委　員　Ｂ者、Ｃ者、Ｅ者。

教　　育　　長　集計をさせていただく。数の多いほうから、Ｃ者が６、Ｂ者が５、Ｄ者が３、そしてＡ者とＥ者が２ということで、上位３者は、Ｃ者、Ｂ者、Ｄ者ということになる。この３者で議論を進めてまいりたいと思う。

ただいまの時点で、Ｃ者、Ｂ者、Ｄ者ということであるが、次の段階として、これらの３者について改めて意見を頂戴し、ご議論をしていただきたい。最終的に委員の皆様の合意の下、採択候補を１者に絞り込みたい。

まず、この３者について確認したいことや質問、意見をいただきたいがいかがか。

（質疑なし）

教　　育　　長　この３者で進めることについて、ご質問等が特にないようなので、皆さんの意見をお聞きしながら１者に絞り込んでいきたいと思う。

それでは、ご意見を願う。

花　渕　委　員　Ｄ者について、教科書の図版でいくと、ほかの２者と比べて小さめになっているため、若干スペースが狭く、寄せ集められている感じがした。

Ｂ者についても、「探Ｑ実験」「探Ｑ実習」があり、これはほかの発行者にないところで、これもすごく興味深いが、上位３つの発行者の中では、私はＣ者が、実験の中のステップを非常に細かく、そして詳しく踏んでいると思う。なおかつ、中学生にとって非常に分かりやすい進め方になっているのではないかと思うため、仙台市の子供たちにとってはＣ者の理科の教科書がいいと思った。今、理科離れが叫ばれているため、理科が苦手ではないが、あまり得意ではない子供たちにとっても、非常に分かりやすい教科書になっているのではないかと思ったため、私はＣ者がいいのではないかと思っている。

川　又　委　員　先ほど少しお話ししたが、Ｃ者の表紙は、実際に科学、理科を学ぶ生徒が表紙に配置されていて、生徒が自ら疑問を持ってそれを探究していくという考え方の表紙であり、教科書の全体としての作りだと思う。他の教科書は、科学の対象である自然や物質、動植物が表紙になっており、大きな違いがある。生徒が表紙に配置されて、疑問を持って探究していくという考え方はとても重要なことだと思う。

科学に関しても、歴史や生活、社会と結び付きが強く、各学年の「科学の本だな」で、少し高度な感じもするが、関連する書籍の紹介があることはとても重要なことであろうと思う。この３者でいうとＣ者を特に推薦したいと思う。

後　藤　委　員　この３者の中であれば、Ｂ者とＣ者どちらも甲乙つけ難いが、それぞれに特長があると思う。Ｂ者はコラムが多く、少し理解が苦手な子でも読んで楽しいところがある。そのため広く興味を持って理科の学習に入っていくことができるのではないかと思った。

Ｃ者は、例えば水溶液で、入試に出るような問題が「じっくり探究」で集中的に取り上げられており、取りこぼさない、見逃さない、そこだけやれば頭に入ってくるというところが、子供たちにとっては分かりやすく、とても良い教科書だと思う。実験の説明も分かりやすかったので、とてもいいと思った。

本当に甲乙つけ難いが、Ｃ者を推させていただく。

山　田　委　員　私はＡ、Ｂ、Ｃ者を推していたが、その中のＢ者とＣ者を比較すると、私はＢ者を推したい。掲載されている写真が身近なものであり、例えば酸性とアルカリ性の取り上げ方など、学習内容的にはＣ者のほうがいいような気はするのだが、科学が苦手な子どもが、実際に身近なもので科学を感じるというような図やイメージはすごく重要である。また、実験の手順も、私はＢ者のほうが少し学習に入りやすいというか、説明がしやすいと感じた。私はＢ者を推薦したいと思う。

庄　司　委　員　私はＣ者がいいと思ったのであるが、「学んだことをチェックしよう」や、「学習内容の整理」など、単元ごとに学習内容についてコンパクトに整理されていて、「確かめ問題」でもきちんと確認ができ、生徒が自主的に取り組める工夫があると感じた。写真が大変多く、とてもきれいだという印象であり、いろいろな情報が載っていることで、どの教科書も甲乙つけ難いとは思うのであるが、私はＣ者がいいと感じた。

長谷川　委　員　私も、Ｂ者とＣ者で非常に迷ったが、Ｃ者を推薦したいと思う。その理由は、少し理科の内容とは離れるが、表現と体裁に関して言うと、もし自分が疲れていても「理科の勉強をしなくてはいけない」と教科書を開いたときに、Ｃ者のほうが非常に目に優しく、文字や写真のレイアウトが非常に工夫されている。また、写真、図版などが鮮明で、本物と同じような色合いになっていることで、勉強に取り組みやすい。全く科学的な理由ではないが、そういったレイアウトや写真など、教科書の見やすさとい

うことも踏まえて、Ｃ者を推薦したいと思う。

教　　育　　長　Ｃ者を５名の委員が推薦し、Ｂ者については１名の委員が推薦ということであった。

Ｃ者については、実験のステップが非常に丁寧で分かりやすく、そうした要点がしっかり盛り込まれているなどの指摘があった。

一方、Ｂ者については、手順の説明や図版が非常に分かりやすいといったご意見があったところである。

おおむねＣ者を推薦される委員が多いと感じている。今ほど、お話ししたような観点において、理科については、Ｃ者ということでよろしいか。

（異議なし）

教　　育　　長　理科については、今ご議論いただいたことを踏まえてＣ者が採択候補ということで異議なしと認める。理科についてはご議論いただいた内容を採択理由として、事務局で整理の上、７月 26 日に最終的に決定したいと思う。

【音楽（一般）】

教　　育　　長　次に、音楽（一般）について協議を行う。

事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いする。

教育指導課長　担当指導主事からご説明する。

指　導　主　事　中学校音楽では、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指すとしている。

（１）曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

（２）音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

（３）音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

以上のことを目標としている。

協議会において取りまとめた中学校音楽（一般）の全発行者の特長は、別添２の５ページにお示ししている。

主な特長については、まずＡ者は、「学びのコンパス」で、限られた時間の中で思考させたり、話し合わせたりする内容が具体的に示されており、深い学びの展開につながるように配慮されているということである。

次に、Ｂ者は、巻頭に「学習ＭＡＰ」があり、領域や分野ごとに系統性を持ちながら配列されており、学習の進め方がイメージしやすいように工夫されているということである。

教　　育　　長　ただいまの事務局の説明について、何かご質問あるか。

（質疑なし）

教　　育　　長　なければ、２者についてご意見をいただき、ご議論をしていただきたいと思う。最終的に、委員の皆様の合意の下、採択候補を１者に絞りたい。

それでは、各発行者の教科書見本本にご意見をいただきたいと思う。川又委員から

ご意見をお願いする。

川　又　委　員　Ａ者は、音楽や音に関しての楽しみ、芸能、芸術、音響効果を幅広く総合的に取り上げていると思う。また、音楽に関する歴史や社会、地理、文化との関連性が説明されている。現代的な課題との関連で、著作権やメディア、ＳＮＳ、ＳＤＧｓとの関連性が取り上げられているのが特長だと思う。

次に、Ｂ者の教科書を見ると、音楽や曲が例示されているが、音楽と詩、歌詞の関連性を重視した内容、そのような題材が豊富に取り上げられていると感じた。それから、西洋の古典音楽、日本の伝統音楽、日本の近代・現代音楽、ポピュラー音楽が数多く満遍なく取り上げられている。コンピューターとコンピューターを利用した音楽、それから著作権、メディア、ＳＮＳとの関係が取り上げられている。

後　藤　委　員　Ａ者は、歌うこと、奏でることである歌唱と、作ることである創作を合わせて表現とし、表現することと鑑賞することという両面からアプローチして学びを深めていく工夫が見られた。１、２年生で郷土の祭りや芸能など、３年生では海外のポピュラー音楽のジャンルにも触れており、我が国の伝統と文化に着目し、さらに諸外国の文化を理解させる学びがある。「学びのコンパス」では話合い活動を促しており、主体的・対話的な学びを実践するための配慮が見られた。

Ｂ者は、様々なジャンルの楽曲を取り扱っており、豊富な題材で生徒の興味・関心を大切にしていると思った。「コンピューターで表現しよう」では、音楽アプリでの作曲、創作の例を出しており、今後必要となる知識の一つかと思って感心した。

山　田　委　員　まず、Ａ者は、歌唱、創作、鑑賞で色分けがされていて、自分で歌うと同時に鑑賞し、または作るなどいろいろな場面から音楽を学べるようになっていると感じた。また、「Ｍｙ　Ｍｅｌｏｄｙ」や「学びのコンパス」で、音楽を理論的に構成することや特長を学べるようになっている。また、曲や作曲家についての説明が多数ある。音楽史については、日本と世界を並べて顔写真付きで見やすく詳しく書いてあるのがいいと思う。著作権についての説明もあった。

Ｂ者は、「Ｓｉｎｇ！　Ｓｉｎｇ！」で、発声や音声、混声合唱のパートの色分けなど、分かりやすい説明がなされていた。コンピューターと音楽については、今後音楽に携わっていく人たちにとって、重要な情報ではないかと思った。音楽の授業を通してより多く歌い、より多く音楽を聴き、弾くというスタンスになっている気がして、説明ももちろんあるが、それも一つの音楽を楽しむという方向性としていいのではないかと感じた教科書であった。

庄　司　委　員　Ａ者であるが、「学びのコンパス」には活動の目標、ヒントがあり、学習を深められるよう工夫があると感じた。また、能や歌舞伎、民謡などをたくさん教材に取り上げていて、音楽だけではなく日本の文化、歴史にも触れた内容、またほかの教科、例えば社会科などと関連した学習ができるような工夫があり、とてもよいと感じた。

Ｂ者であるが、学習ＭＡＰがあり、学習目標が明確に示され、大変取り組みやすい工夫があると思った。ワークシートでは、自分で考えたこととみんなで考えたことの記載欄があり、考えて表現する、発表し合うことで一歩進んだ学びに進む工夫がされていると感じた。

長谷川　委　員　Ａ者については、現代音楽、さらには伝統音楽、外国の音楽などが幅広く紹介されていて、生徒が興味・関心を持つ工夫がされていると思う。また、「学びのコンパス」で、生徒同士の交流が深まるように工夫されていると感じた。

Ｂ者については、よく整理されているという印象である。目次もそうであるし、ねらいのページなどがあることによって、目的や学ぶ事項がよく分かるし、学習の進め方も明示されていると思う。コンピューター音楽についての新しい内容が入っているのも非常に興味深い。それから、少し違った観点であるが、音楽の教科書が一種の楽譜のようなものだとしたら、それを立てたり、いろいろな角度で見たりすることがあるのではないかと思うが、つや消しの紙面であることで、楽譜なり文字が消えることがないため、非常に見やすいと思った。

花　渕　委　員　私もＡ者については、「学びのコンパス」が、非常に特長的でもあり、子どもたちにとっても、まさに指針となるところかと思い、Ｂ者との違いだと感じていた。

Ｂ者については、色遣いで、今何の学習をしているのか、歌唱なのか、鑑賞なのか、創作なのかが、一目で分かるような工夫になっており、非常に見やすい教科書だと思った。それから、「音のスケッチ」があり、創作に関して創作がしやすいような配慮がされており、特に既習曲を用いることで、取り組みやすくなっているという感じを持った。

教　　育　　長　各発行者の教科書見本本の特長について、ご意見をいただいたところである。

ここからは、委員の皆様から、さらに確認したいことや質問はないか。

（質疑なし）

教　　育　　長　なければ、このご議論を踏まえて、どの発行者の教科書がよいかご意見をいただきながら、１者に絞り込んでいきたいと思う。それでは、ご意見をお願いしたい。

川　又　委　員　私はＢ者を推薦したいと思う。Ｂ者は、音楽と歌詞、詩を重視した曲の例が豊富に取り上げられていて、西洋の古典、日本の伝統音楽、近代・現代音楽など各分野から偏りなく楽曲が取り上げられていることにより、音楽全体が学べるため、こちらを推したいと思う。

後　藤　委　員　Ａ者。

山　田　委　員　Ｂ者。

庄　司　委　員　Ａ者。

長谷川　委　員　Ｂ者。

花　渕　委　員　Ａ者。

教　　育　　長　１者に絞り込みたいところであるが、Ａ者、Ｂ者それぞれ３者ずつの推薦になっている。この件について、どなたかご意見はあるか。例えば、先ほど指導主事から説明があったが、曲想と音楽の構造、背景など、そうした関わり、あと音楽の多様性について理解できる点かどうか、創意工夫した音楽表現をするために必要な技能、また音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさ、そうしたものを味わって聴くことができるようにすること、それから、音楽活動の楽しさ、音楽を愛好する心情を育むことという観点が学習指導要領にあるわけだが、それらの観点から、再度ご意見をお願いしたい。

花　渕　委　員　音楽は、学習指導要領の中では、表現と鑑賞と２つに分かれているが、実際は歌唱と創作を合わせて表現、それと鑑賞が柱になっている。

Ａ者は、最初の学習内容のところに、表現は歌唱と創作からなり、それと鑑賞であるというように明示されているのだが、Ｂ者の場合は、歌唱、鑑賞、創作が３つ並列となっている。表現と鑑賞という２つの学習であり、なおかつ表現の中に歌唱と創作があることがきちんと明示してあることから、私はＡ者のほうが子供たちの学習にと

っては好ましいのではないかと感じる。

教　　育　　長　ほかの委員のご意見を伺った上でさらにご意見はないか。

川　又　委　員　次の器楽との関係はいかがか。それぞれで検討することになるのか。

教育指導課長　担当指導主事から説明する。

指　導　主　事　仙台市の採択方針、採択の観点に照らし合わせて、各者の特長を踏まえて、仙台市の中学生によりふさわしい教科書を判断して決定していただければと思う。音楽と器楽が同じ発行者でなければならないということではなく、それぞれでの採択となる。

川　又　委　員　承知した。先ほどＢ者ということであったが、基本的にはＡ者もＢ者も、本当に甲乙つけ難いところである。どちらを強く推すかということは、できないような感触である。

後　藤　委　員　私はＡ者を推したが、Ａ者の何を子供たちに見せたいと思ったかというと、２・３年下の 58 ページにあるポピュラー音楽である。音楽というのはいろいろなジャンルがある。学校で習うものだけではなく、子供たちの周りにはいろいろな種類のものがあふれている中で、少しずつそこに触れているのである。ボサノバであったり、ジャズであったり、カントリーであったり、ラテンであったり、レゲエであったり、広いジャンルに触れているので、それらを一回経験してほしいと思った。これから子供たちは社会、世界に出ていくので、「そういえば音楽の教科書にレゲエというものが載っていた」で良いので、少しでも触れてもらいたいと思った。

山　田　委　員　私も甲乙つけ難いと思っていたが、Ｂ者を推したのは、レゲエやブルースに関して、54 ページからいろいろと載っていて良いと思っていた。日本と西洋の音楽の比較についても、両者とも顔写真などを並べ、分かりやすく掲載されているのも良いと思う。またＢ者のほうが、例えば指揮の仕方が、詳しく分かりやすく図解入りで示されていると思い、子供たちが実際に指揮をするときに、分かりやすい気がした。

　どちらも甲乙つけ難いので、大きな差はないのかもしれないが、通して見るとＢ者の方が分かりやすい。色分けなども非常にきれいにされていて、見やすいのではないかという気がしたため、こちらにした。Ａ者は、説明がすごく丁寧で、音楽を１つの学科として学ぶというイメージを感じた。いろいろ議論的なことが書いてあることや、説明が多いこともいいと思う。Ｂ者ももちろん説明はあるのだが、より音楽に触れる、自分でやってみるというイメージを教科書から受けたので、私はＢ者にした。

庄　司　委　員　私はＡ者がいいと思い、今も変わらないのだが、中学校というと日々忙しい毎日を送っている中で、音楽の時間を考えたときに、例えばこの「学びのコンパス」のところに載っているように、どういった活動なのかがきちんと記されている。子供たちがそれを見てどのように感じるかということもあるが、受験科目にない学科という捉え方ではなく、心が何か癒されるような時間であってほしいと考えている。いろいろな科目があるが、音楽でも一つこういった活動の目標をきちんと持ちながら学ぶといったところでは、記されている内容が明確で、私は良いのではないかと感じた。

長谷川　委　員　私はＢ者を推薦したが、もちろんどちらも特長があり、よくできたものなので、どちらが採択になってもよいとは思っている。何度も出ているが、Ａ者は教科書としてとても良い。学校で使う本としてとても良い。

　Ｂ者について、私は非常に分かりやすいと思う。今、自分が何をしているのか、今、歌っているのはどの位置にあるのかが一目で分かりやすい。例えば詩が大きく提示されてイメージを喚起させるものや、指揮の仕方、「アルルの女」を分解して説明して

いるもの、具体的にどうすればいいのかがよく説明されているため、楽しめる内容だと思ったため、Ｂ者にした。

教　　育　　長　今２回ほど皆様のご意見を伺い、それぞれほかの方のご意見が出たところで、あえてもう一度何かお考えを述べたいという委員の方がいれば伺いたい。

川又委員、山田委員、長谷川委員は、甲乙つけ難いというご意見であった。そのほかは、花渕委員、後藤委員、庄司委員についてはＡ者ということであった。

しかしながら、長谷川委員は若干Ｂ者のほうが優れている、山田委員もＢ者のほうが若干良いという話であった。

どちらも甲乙付け難いということで、議論が膠着してしまったが、例えば、生徒に、音楽に興味を持っていただくということ、音楽の楽しさがないことには音楽を勉強してみようという気持ちにはならないので、音楽の楽しさという観点から、もう一度このＡ者、Ｂ者についてご意見がないものだろうかと思う。音楽の楽しさ、音楽に対する興味がかき立てられるのはどちらの発行者だろうかということなのだが、どなたか意見はないか。

花　渕　委　員　先ほど、皆さんから出ているが、どちらも本当に音楽の楽しさを感じさせる作りになっていると感じてはいる。

Ｂ者も大変すばらしい選曲だが、Ａ者に震災のときの「花は咲く」という曲が取り上げられている。これから間もなく仙台市も震災を知らない子供たちが中学生になっていくことから、この歌を歌って震災を風化させないという意味でも、Ａ者の取り上げている「花は咲く」という曲は、仙台市として震災の記憶とともに歌い継ぐべきものなのではないかと思っている。この１曲だけというわけではないのだが、仙台に住む子供たちにとっては大切にしてほしい曲である。

後　藤　委　員　音楽の楽しさは、教室でみんなで活動する楽しさ、共同作業だと思う。この教科書はどちらも２・３年の上の 32 ページにあるのだが、まさに「リズム遊びをしよう」で、リズムパターンを学ぶという内容がどちらの教科書にも出ている。ここで本当に音を楽しむ、音楽を楽しむという体験型の行動をさせていると思う。

これを比べたときに、２段階の活動になっていて、まず 32、33 ページで、誰にでもできる簡単な音遊びを取り上げている。次に、34、35 ページで、創作部分も含めた少し発展的な活動をさせる構成となっている。誰でもできる遊びと、その上の発展的な遊びを体験させている。Ａ者のリズムゲームは、簡単で、私にもできた。しかし、Ｂ者は、難しかった。Ａ者のほうが簡単にできるものを提示して、その発展的な音楽を創る部分もあり、好きな子はきっと入れるだろうと感じた。Ｂ者で簡単なゲームと位置付けているものが、私にとっては難しかった。その後の発展で取り上げられる平調子の特長というのは、お琴の調弦の仕方の一つであるため、発展し過ぎて難しいと思った。そのためＡ者がいいと思った。

山　田　委　員　ページを比較すると、こちらにはあってあちらにはないというものがたくさん出てくるので、どこを見るかによって大分違ってくるかと思う。

Ａ者のほうはやはり少し難しいと思う。理論的であることはもちろんいいのだが、例えばＡ者の１年の 20 ページにある、音をつくるシートが、私は分からない。２・３年生上の、小フーガのところを見たときに、Ｂ者のほうがやはり色分けがきれいで、主題が交互に次々と出てくるところがすごく分かりやすいと思って私は見ていた。

あと、Ｂ者はコンピューターでどう表現するかというところが、１年生にも出てい

て、それはこれからの子供たちに必要な情報ではないかという気がした。

庄　司　委　員　内容的には、どちらも本当にすばらしいとは思うのだが、両者ともいろいろな有名人、著名人の音楽に対してのメッセージが書かれているのだが、A者の１年の本を開いてすぐに掲載されている、上白石萌音さんのメッセージのところに、よくある中学校の合唱コンクールの話が一部あり、その一節に「もしかしたら中学時代にしか経験できないかもしれませんよね。でも、この時期って気持ちが揺れ動くから、頑張らないほうがカッコいいという雰囲気、分かります。」と。自分たちのときもそうだったし、自分の子供も中学時代に女子は一生懸命だけれども、男子は全然声を出してくれないなど、同じことで悩んでいた。あるとき「声を出そうよ」と言ったけれども、本番では全然声を出さなくて、結局負けて泣いたことなど、いろいろな思い出が、まさにそのことだと感じ、とても気に入っているメッセージである。

　どちらの教科書も内容的には本当にすばらしいと思う。こういうメッセージから子供たちがどのようなことを受け取るかということも一つ大切なことなのではないかと感じたので、私はA者を推したいと思う。

長谷川　委　員　難しい状況になっていて、受け止め方もそれぞれなので、中学生一人一人がどう受け止めるか分からない。例えば、B者の１年生のメッセージに、今注目されているピアニストのCateen（かてぃん）が掲載されており、これは人によってはぐっとくると思う。それがまさしくコンピューターミュージックを紹介しているB者の特長にもつながると思う。ただ、それはまた別の見方もあるわけで、その一つ一つを比較していってもきりがないと思う。

　私が皆さんの意見を聞いて思ったことが、伝統を守ることや、仙台らしさを追求したいというのなら、震災の歌が入っているA者がよいと思う。最初に言ったように、非常にオーソドックスな教科書として完成されている形がA者だと思った。教科としての充実や、仙台らしさを追求するのならA者だと思う。もっとユニバーサルに、あるいは未来に向けて考えよう、あるいはもっと楽しい、とにかく楽しさを追求しようというところに注目するなら、B者のほうが分かりやすいし、キャッチーだと思う。

教　育　長　基本的なスタンスは、第１回目の意見を述べていただいたときと同じだが、それぞれ両者のいいところを認めている状況であり、このままだと３対３ということで議論が進まないので、一旦、議論はここまでにしたいと思う。この後、器楽について協議し、休憩を挟み、もう一度、音楽（一般）について議論させていただきたいと思うが、よろしいか。

（異議なし）

【音楽（器楽合奏）】

教　育　長　次に、音楽（器楽合奏）についての協議を行いたいと思う。

　事務局から学習指導要領の目標等について説明を願う。

教育指導課長　担当指導主事から説明する。

指　導　主　事　中学校音楽（器楽合奏）の学習指導要領に示されている目標等については、音楽（一般）と同様である。

　協議会において取りまとめた中学校音楽（器楽合奏）の全発行者の特長は、別添２の７ページにお示ししている。

　主な特長について、まずA者は、「学びのコンパス」では、題材で考えさせたいこ

とのヒントが書かれており、基礎的な内容から応用的な学びにつながるよう配慮されているということである。

次に、Ｂ者は、巻末には名曲旋律集があり、短い特長的なメロディーを多く取り上げ、興味・関心を高めながら、応用的な学びにつながるように配慮されているということである。

教　　育　　長　ただいまの事務局の説明について、何かご質問あるか。

（質疑なし）

教　　育　　長　なければ、議論に移りたいと思うが、器楽合奏は２者なので、皆さんから、まずご意見をいただいた上で１者に絞りたいと思う。

それでは、後藤委員からご意見をお願いしたい。

後　藤　委　員　Ａ者は、多彩な楽曲が掲載されており、生徒たちに演奏に対して主体的に取り組む興味を引き出す工夫が見られた。「アンサンブル」では、リコーダーとギター、リコーダーと打楽器の合奏もできる曲を載せており、複数の楽器を組み合わせた合奏という発展的な音楽を楽しめる学習への配慮が見られた。

Ｂ者は、生徒の興味・関心を引く楽曲が多く掲載されており、「名曲旋律集」では、特長的な旋律を部分的に示すことで、初めて楽譜を見る生徒でも、自ら演奏に挑戦してみようと考えることができるような工夫がされていると感じた。初めて触れる楽器に対して比較的演奏しやすい旋律が用意されており、基本的な技能の習得に配慮されていると思う。

山　田　委　員　Ａ者は、各楽器の章の最初に演奏を聴くことから入るのがよいと思った。まず、どんな音がするのか、どういう曲があるのかを頭に入れて、その楽器について学んでいくというのは、良いスタートだと思った。最後に、ギターやキーボードのコード表というのがイラストでついているのもよいと思った。

Ｂ者であるが、太鼓の打ち方を、いろいろな写真を豊富に掲載することで分かりやすくしているのがよいと思った。各楽器の「聴いてみよう」があるのだが、こちらは３種類の楽器でそれぞれの曲を聴いて、表現の仕方を比較して表にまとめるというようなところがあり、そのような取組もいいのではないかと思った。最後にギターとキーボードのコード表が見開きで付いていて、こちらもカラーで大変見やすいと思った。

庄　司　委　員　Ａ者は、どの楽器についても、演奏を聴くこと、楽器を知ること、楽器の各部の名称や演奏の姿勢など、とても丁寧に基本から理解を深めることができると感じた。楽器への興味・関心を持つことで、実際に弾いてみよう、吹いてみようと学習にスムーズに入っていくことができる工夫があると思った。日本文化や伝統的な音楽も教材に多く取り上げてあり、また伝統の枠を超えて活躍する和楽器の紹介など、音楽の多様性にも触れているところが大変よいと感じた。

Ｂ者は、目次では、学習の目標が明確に示されており、楽器ごとに写真や図、基本的なところから、とても丁寧な知識の習得への工夫があると感じた。また、ほかの教科との関連やＳＤＧｓとの関わりについても記載があるところも大変よいと思った。

長谷川　委　員　Ａ者については、楽器ごとに、「〇〇の演奏を聴こう」「楽器を知ろう」「各部の名称」「姿勢と構え方」など、まとまりがあり、学習のねらいが非常に分かりやすいと思う。音楽的な見方・考え方が分かるような視点の確認、主体的な学習ができるように全体的に工夫されており、非常に分かりやすくできていると思う。

Ｂ者は、学びの順序が整理されている。これは管楽器、弦楽器、打楽器などのまと

まりがあり、「演奏の仕方を身につけよう」「合わせて演奏しよう」というような構成になっているので、既に身に付けたものをさらに応用できるようになっている。また、写真が大きく、手の様子もよく分かり、先ほども意見があったが、キーボード、コード表がカラーになっているので、視覚的にも分かりやすいと思う。

花　渕　委　員　Ａ者であるが、子供たちにとってイラストの対話を基に学んだことをまとめる、「学びのコンパス」はすばらしいと感じた。

Ｂ者については、こちらも大変すばらしくまとまっているのだが、管楽器、打楽器、弦楽器など、楽器のまとまりごとに、音楽文化まで理解を意図した教材を示しているというところが非常にすばらしいと思った。

川　又　委　員　まず、Ａ者であるが、入門しやすいリコーダーから始まり、和楽器、古典的な楽器へと内容が展開している。五線譜だけではなく、日本の伝統的な記譜法も紹介されているところがよいと思う。実際に演奏している写真については、中堅の演奏家が非常に多く取り上げられているので、生徒に親しみやすい写真になっていると思う。

Ｂ者は西洋の楽器、和楽器の紹介が多数ある。演奏者の例としては、幅広く、年齢層や性別、楽器の分野から選ばれている。巻末では、ギター、キーボードのコード表が体系的に記述されており、またリコーダーの運指表も入っていることで、実際にこの楽器を使用する際の参考になるものと思う。それから、コンピューターの利用ということで、コンピューターを使った楽譜の印刷や音楽の検索、それから音楽の編集に言及されているところが特長かと思う。

教　　育　　長　今ほど、発行者の教科書見本本の特長についてご意見をいただいたところであるが、委員の皆様から、さらに確認したいこと、質問、それからほかの委員のご意見を踏まえたさらなるご意見などがあれば伺う。

花　渕　委　員　事務局に教えていただきたい。この音楽（器楽合奏）というのは、太鼓からギター、篠笛などいろいろあるが、これは全ての楽器を全ての子供が演奏するということでよろしいか。

指　導　主　事　器楽については、様々な打楽器、弦楽器があるが、それらの楽器を生徒の実態や地域の特性に合わせて選択し、教材とするということで示している。中学校の場合、３年間で、和楽器については１つ以上取り扱うことと指定されているが、楽器数などは指定されていない。

教　　育　　長　そのほか意見や質問はあるか。

川　又　委　員　学習指導要領に書かれていることとの関連で言うと、具体的にどの楽器ということは指定されていないと思う。Ａ者もＢ者も教科書を見たときに、児童生徒が一般的に数多く触れているようなピアノについてはほぼ出てこないということと、部活動でかなり多くの児童生徒が取り組んでいるような吹奏楽器についてもほぼ出てこないところが非常に不思議だった。例えばピアノや吹奏楽器については、小学校で取り上げられているのか、それとも余りにもポピュラーなので、あえて中学校で取り上げる必要がないという感じなのか、指導要領との関係でどうなっているか、発行者がこのような組立てにしているのか、小学校の学習指導要領では必ずピアノやバイオリン、吹奏楽器などを取り上げているのか伺いたい。

指　導　主　事　音色の紹介という形で、鑑賞の授業では弦楽器、あとは吹奏楽器等の教材として取り上げることはあるが、小学校で、その楽器を取り上げて演奏するという指定はない。

教　　育　　長　その他ご質問、さらなるご意見はあるか。

後　藤　委　員　様々な和楽器が多く掲載されているが、現実的に子供たちが触れるのはそのうちの１種類だけということでよろしいか。

指　導　主　事　学習指導要領上では、和楽器、弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、電子楽器及び世界の民族楽器を指導上、地域や実態に応じて選択することとなっている。種類については、和楽器については３年間を通じて１種類以上取り扱うことと記載されている。

後　藤　委　員　地域に応じてといっても、学校にその楽器がない場合があると思うのだが、仙台市教育委員会で貸与などができるということでよろしいか。

指　導　主　事　和楽器については、仙台市教育センターで貸与している。あとは、学校間で学習の時期をずらして、お互いに貸与しながら授業を進めている。

後　藤　委　員　先ほどご説明いただいた内容では取り扱える楽器の範囲が広いように感じた。例えばギターの楽譜も実際あるのだが、学校でのギターの使用状況はいかがか。

指　導　主　事　多くの学校では、２～３本ギターが配備されていると思う。多い学校では、クラス数に合わせて 10 本、20 本単位という学校もあるが、そちらについても配備する数は決まっていない。ギターについては概ね学校にあるのではないかという現状である。

教　　育　　長　そのほかにご意見等よろしいか。

（質疑なし）

教　　育　　長　それでは、これまでの議論を踏まえて、どの発行者の教科書がよいかご意見をいただき、１者に絞り込んでいきたいと思う。

それでは、ご意見を順番にお願いしたい。

後　藤　委　員　私はＡ者を推薦させていただく。その理由としては、今の説明を聞いてさらに思ったところなのだが、やはり器楽は楽器に触れることがとても大切だと思う。Ａ者の教科書はアンサンブルで、リコーダーとギター、リコーダーと打楽器の合奏ができる曲を載せている。やはり合奏をさせてあげたいと思う。ギターが各学校にあるのであれば、ギターを扱う経験をさせてあげられるような教科書であれば活用できるのではないかと思う。その点からＡ者を推薦する。

山　田　委　員　本当にどちらも甲乙つけ難いと思っており、ただ先ほどのお話で、和楽器の項目が７つあるうち４つが和楽器で、そのうち１つしか使えないというのは、教科書としてどう見たらいいのかという感じは少しする。先ほど川又委員がおっしゃったように、鍵盤楽器である鍵盤ハーモニカについては、小学校で学ぶのだと思うが、この中でどの楽器を扱っているからいいと言うのはなかなか難しいと思った。

ただ、選ばなければいけないとすると、私はやはり先ほどの太鼓の打ち方などの詳しさや、実際に演奏するリコーダーにしても、押さえ方が両者とも記載されているが、なかでも非常に詳しく書いてある点を考えるとＢ者かなという気はしている。

庄　司　委　員　Ａ者。

長谷川　委　員　Ｂ者。

花　渕　委　員　Ａ者。

川　又　委　員　基本的にＡ者もＢ者もほぼ同様に非常に優れた教科書であると思うため、本当に甲乙つけ難い。コンピューターの利用や、巻末の資料にある様々なコード表や運指表がまとまっているという点で、Ｂ者でお願いする。

教　　育　　長　それでは、これも３対３ということであった。ほかの委員のご意見をお伺いして、なお付け加えることがあればご発言いただければと思うが、いかがか。

後　藤　委　員　もしＢ者を選ぶのであれば、「名曲旋律集」を笛で吹くだろうと思った。子供たち

全員がアルトリコーダーを中学校で購入している。小学校ではソプラノリコーダーを買い、中学校ではアルトリコーダーを買うため、だからリコーダーの二部合奏はできると思う。そのため、生徒が個人で教科書を見て演奏するのであれば、この「名曲旋律集」の短いところを吹いて楽しむだろうし、授業で音を合わせて奏でる楽しさを実感させるのであれば、このアンサンブルとして提示してある曲を演奏するのだろうと思う。Ｂ者だとアンサンブルとして提示してある曲は、６ページの目次にある、「合わせて合奏しよう」の「Let’s Play」で幾つか曲が提示してあるが、アルトリコーダー、ソプラノリコーダー、リコーダーだけの合奏の曲を掲載しており、リコーダーは全員が持っているため、みんなで演奏できるだろうと思う。

ただ、Ａ者だと、家にはなく、学校でしかできない楽器を扱っているという点で、ギターが学校にもしあるのであれば、ギターを使ったアンサンブルの合奏を学校でやらせてあげたいと思う。合奏曲の提示で、目次には、７ページの「アンサンブル」で、ギターを使った曲を紹介している。学校のギターを使い、ギターとリコーダーで音を合わせるという経験をさせたいので、それができるのは「アンサンブル」に提示してある曲だと思い、Ａ者を推薦したい。

山　田　委　員　私は、いいと感じたのは、最後のギターとキーボードのコード表である。両者を比較したときに、Ｂ者のほうがカラフルで、かつ実際に人の手の写真が載っており分かりやすい。最近の中学生がどのような思いか分からないが、少なくとも私たちが中学生のとき、１回ギターを弾いてみたいという世代だったような気がしており、そのときに感じたこととして、コードをどう押さえるかは結構難しいということである。ここに書いてある楽器の中で一番子供たちが演奏してみたいと思うのがギターかどうか分からないのだが、もし中学生になって、リコーダーとまた違う身近な楽器を演奏したいと思ったときに、次にくるのがギターなのであれば、このようなコード表は結構重要かと思った。よって、Ｂ者を推したいと思う。

庄　司　委　員　私は、Ａ者が良いと思う。先ほどの説明で、各学校やその地域の現状に合った楽器が実際には体験できるということなので、子供が進んだ学校によって様々だと感じた。教科書にいろいろな楽器がこのように載っているので、Ａ者でもＢ者でも、聴くことまではできるのかなと思う。あわよくば、楽器が手に入った学校は、実際に手に取って音を出してみることができるということで、できれば子供には興味のあるものを演奏させてあげたい、親としてはそのような思いである。打楽器にしろ、例えば日本の様々な伝統ある楽器にしろ、なかなか難しいとは思うが、できればこのような楽器を一人でも多くの子供に経験してもらいたいと考えたときに、まずはリコーダーは基本として、リコーダープラス何かといった、一緒に奏でる楽しみ経験させると考えたときに、ギターなどがあれば一番いいと感じた。

長谷川　委　員　私がＢ者を推薦したのは、最後の短い曲が紹介されているのが取り組みやすくていいと思ったからである。アンサンブルとまではいかないけれども、旋律と鍵盤楽器の伴奏やリコーダー同士のデュオみたいなものが載っているので、それほどアンサンブルがないとは思わなかった。最初に申し上げたように、写真がやや大きめだったり鮮明だったりして、全ての楽器を練習するというわけではなさそうなので、事典のように使うなら、そのコード表も含めて分かりやすい写真などが使われているのは便利だと思った。

花　渕　委　員　私はＡ者がいいと感じていた。Ａ者は、全部の楽器はやらないということはあるが、

楽器ごとに、その第一人者と言われる人たちからのメッセージが入っている。そのような熱いメッセージを中学生のこの時期に、心で感じて、これをやってみようかなという気持ちになっていくものであり、こういう一言がきっかけになったりする。また、Ａ者の最初にある若いドラム奏者も、有名なドラマーに褒められたことからドラムの道に入っていったことが書かれており、第一人者の言葉というのは非常に多感な中学生の時期にとってはとても響くのではないか、この楽器に触ってみたい、演奏してみたいという気持ちを大切にするということであれば、Ａ者のほうが良いと思う。

川　又　委　員　Ａ者、Ｂ者の差はほとんどないと思う。特に、学習指導要領にはそれほど細かく楽譜は指定していないが、生徒にとっての勉強のしやすさでいうと、リコーダーやギター、それから琴や三味線というようないろいろな和楽器の順番で記載されているので、Ｂ者のほうが五線譜の楽譜で２段や３段、４段になった合奏のような楽譜が少し見やすいと言えると思う。そのくらいの差である。

教　　育　　長　多数決を採るわけではないが、３対３である。甲乙つけ難い中で、あえて甲乙をつけるとすればというご発言があった。

先ほどの音楽（一般）も含め、このように分かれてしまった状況である。ここで 15 分休憩を取りたいと考えている。４時 20 分に再開とさせていただきたい。

（休憩）

教　　育　　長　それでは協議を再開する。

議事の再開に当たり、皆さんから何かご発言あるか。

特になければ、音楽（一般）と、それから器楽合奏について、皆さんの意見がＡ者、Ｂ者ほぼ同等である。このような状況であるため、私から一つ観点として出させていただき、その上で皆様の意見をお伺いしたいと思う。

私としては、音楽には、独奏があり、演奏や鑑賞の両方において、１人で学ぶこともあるが、学校という場所において、クラスメートと一緒に音楽を聴いたり、音楽に親しんだり、また楽器を演奏するということを考えると、音楽（一般）については、クラスメートとの対話ということを重視したい。同じ音楽を聴いて、そしてその音楽の感想をクラスメートと話をして、その違いに着目したり、それから共感に着目したりということを重視するということであれば、Ａ者のほうが一日の長があるのではないかと私は考える。

それから、音楽（器楽合奏）についても、同じような考えに基づけば、様々なアンサンブルができる、合奏ができるというご意見、リコーダーだけのアンサンブルではなく、異なった楽器によるものを行ってほしいというご意見もあった。私もその点について同様に考えていた。学校という現場において、クラスメートとどう対話をしていくか。合奏であれば、どのように子供たちが役割を担って一つの音楽を創り上げていくかということを重視したいという考えである。器楽合奏についてもＡ者が一頭地抜きんでているのではないか。

私の意見をお話しさせていただいたが、皆様からもご意見をいただきたい。

音楽（一般）と、それから音楽（器楽合奏）の両方についてご意見を伺っていきたいと思う。川又委員からお願いする。

川　又　委　員　今、教育長からお話があったように、学校という教育現場において、協調性や共同作業、それから互いのコミュニケーションということで考えると、合奏や音楽に関し

ての互いの批評や、そのような点は非常に重要であると思う。教育長の考え方に賛同する。A者、B者どちらも本当に全く差はないというように思うが、今のような観点に賛同する。器楽についても同様である。

後　藤　委　員　賛同する。

山　田　委　員　賛同する。

庄　司　委　員　賛同する。

長谷川　委　員　賛同する。

花　渕　委　員　学習指導要領にのっとった形でということであるので、大変すばらしいと思う。私も賛同する。

教　　育　　長　音楽（一般）についてたくさんご議論いただいたが、音楽（一般）についてはA者ということでよろしいか。

（異議なし）

教　　育　　長　それから、音楽（器楽合奏）について、こちらはA者ということでよろしいか。

（異議なし）

教　　育　　長　それでは、今様々にご議論いただいた内容を採択理由として、事務局で整理の上、7月26日にこれらの２種目について最終的に決定したいと思う。

【美術】

教　　育　　長　次に、美術について協議を行う。

事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いする。

教育指導課長　担当指導主事から説明する。

指　導　主　事　中学校美術では、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指している。

（１）対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、造形的に表すことができるようにする。

（２）造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

（３）美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

以上のことを目標としている。

協議会において取りまとめた中学校美術の全発行者の特長は、別添２の９ページにお示ししている。

主な特長については、まずA者は、別冊資料があり、基礎的・基本的な技法や工程などを主体的に調べながら学習できるように工夫されているということである。

次に、B者は、表現と鑑賞が系統的にバランスよく配置されるとともに、学びの目標が明示されており、目標を理解して学習に取り組みやすい構成となっているということである。

次に、C者は、題材ごとに表現と鑑賞が関連付けられており、相互の学びが深まるように配列が工夫されているということである。

教　　育　　長　ただいまの事務局の説明について、何かご質問あるか。

（質疑なし）

教　　育　　長　なければ、ここから、３者についてのご意見を皆さんから頂戴して、議論をしていきたいと思う。最終的に委員の皆様の合意の下、採択候補を１者に絞り込みたい。

それでは、各発行者の教科書見本本に意見をいただきたい。山田委員からお願いする。

山　田　委　員　Ａ者は、美しいものを見つけようという美術への入口がよいと思った。それから、写真を撮る楽しさ、写真について言及していたのはＡ者が非常に多かったと思い、写真を撮る楽しさや、資料に撮影のポイントなどが記載されているのがいいと思った。また、別刷りの資料が分かりやすい。漫画やアニメが採用されているが、最近のものが採用されていて、子供たちにとってとても身近に感じられるものが入っているのがよいと思った。

Ｂ者であるが、こちらは「鑑賞の入口」が分かりやすい、またそこから造形的な視点へとつながるのがよいと思う。一番後ろにいろいろな資料がついていて、そちらが詳しく書いてあるのがよいと思った。

Ｃ者は自由な発想を大切にしているという教科書のイメージで、「発想・構想」が最初にあり、そこから「知識・技能」で技術を学び、それからいろいろな作品を鑑賞する。または、鑑賞が先にあり、そこから発想して、知識で工夫するという、この順番が明確に示されていて、美術に対しての取り組み方の手順も明確になっているのがいいと思った。それから、アニメの作り方や、絵コンテを描いて、原画を描いて作品にするところもあり、アニメに重点が置かれているところも最近の子供たちにとっては面白いポイントかと思った。

庄　司　委　員　Ａ者は、それぞれの題材に「表現」「鑑賞」のアイコンがついていて、ポイントには問い掛けがあり、意識して学習できる工夫があると感じた。他教科とのつながりについても、コラムがあり、美術にほかの教科の学びが生かされていると感じた。２、３の日本絵画のところは紙質を変えることで、より一層その良さが感じられる工夫があると思った。また、１の資料に日本と世界の伝統色の図鑑が掲載されているが、これも大変良いと思った。

Ｂ者であるが、それぞれに学びの目標が明確に示されており、分かりやすく学習に取り組みやすいと感じた。「道徳との関連」の一言であるとか、そういったことが示されているところ、またほかの教科と関連した内容が取り上げており、大変よいと感じた。見開きで大きなページや原寸大の写真など、掲載にも工夫があると感じた。

Ｃ者であるが、表紙は立体的で、ぼこぼことした加工がされていたり、また中の紙は反射の少ないとても柔らかい感じがする紙を使用したりすることで、見やすいと感じた。学習の目標と見通しを明確に示してある。発想、構想、知識、技能、また鑑賞ではどのように活動していくのか、またキャラクターを吹き出しで示していることで、学習を進めていきやすいと感じた。有名人などの言葉が掲載され、そこに発想、構想のヒントがあり、自分の見方や考え方が深められるような工夫もたくさんありすばらしいと感じた。

長谷川　委　員　Ａ者については、中学生の作品がたくさん紹介されていて、学習者がとても興味を持ちやすい工夫があると思った。

Ｂ者については、「学びの目標」「鑑賞の入口」「造形的な視点」など、いろいろと紹介されている。芸術は一体どこから入っていけばいいのか分からない中学生も多

いと思うが、見方や学び方がきちんと説明されている点が、とてもよいと思った。

Ｃ者については、芸術や美術というものが感性にダイレクトに響く工夫があると思う。教科書が一種の美術書のようなつくりになっているのは、学ぶ中学生の心に響くのではないかと思った。その意味で、表紙から、あるいは裏表紙のデザインすらもよく考えられており、写真も実物大のものを使い、視覚的にすごく工夫されていると感じた。

花　渕　委　員　Ａ者について、資料が別冊になっていることは、Ｂ者、Ｃ者とは少し違う特色があり、１冊が取扱説明書的な内容を担っており、これがあると子供たちが表現の活動に入る際にも、用具をこのように使えばいいのかと分かりやすいと感じた。

Ｂ者については、３つの柱から養う力を学びの目標として、共通事項を意識して、表現と鑑賞の一体化を図っているところが大きな特長と感じた。また、子供たち自身が目標を立てて取り組めるように工夫がされていると感じた。

Ｃ者については、題材ごとに表現と鑑賞が関連づけられて配置されていて、表現と鑑賞の学びが相互に深まるように配慮されていると感じた。

川　又　委　員　Ａ者では、日本の美術と西洋の美術の相互の関係性が強調されていると思う。また、芸術ということだけではなくて、生活の中でのデザインや工芸の重要性を知ることができるような構成になっている。「防災のデザイン」という項目では、ピクトグラム等を利用して、デザインによる情報伝達、表現手段が強調されている。

Ｂ者の教科書で感じたところでは、簡単なものから難しいものへと学んでいくという内容の順番だけではなく、どの項目から選んでもよいような工夫がされていると思った。学習の順番は気にしないでよいというような構成になっていると思う。２ページの見開きで１つの項目をまとめることが徹底された教科書だと思った。内容としては、東北に関わるような美術作品、立佞武多やナマハゲ、仙台七夕、土器の紹介もあるとともに、宮城県にちなんだ震災復興との関わりも紹介されている。

それから、Ｃ者であるが、表紙が独特で、凹凸のある美術作品の印刷になっており、生徒が美術に対しての興味をさらに深めるような工夫がされている。また、Ｃ者は図版が非常に大きく作られているように見えた。また、折り込みが効果的に配置されており、図版や折り込みで興味・関心の度合いを高めるという工夫がされている。また、宮城県の仙台市出身の人物とその作品が大きく教科書の最初に紹介されている。美術の内容としては、近代、現代の美術作品が多数紹介されていると感じた。

後　藤　委　員　Ａ者は、しっかりと作品を鑑賞し、そこから美術的な学びを深める配置になっていると感じた。メインテーマのイラストや写真に関連するものとして同時代の類似の事例を複数載せることで、より理解が深まるように工夫されている。また、教科書の真ん中にある見開きに両側に開くものがあるが、その使い方が本当に上手で、１年生の風神、雷神、２年生のゲルニカが、この見開きの使い方によって、作品の表現力を高めていると思った。また、日本の絵画を楽しむための視点を示したり、資料を別冊にまとめたりする工夫により、美術を深く学ぶような配慮がなされていると思った。

Ｂ者は、生徒が作品制作に取りかかるための第一歩となるような声掛けがある。その声掛けが教科書にあることによって、一手目が出せない子供たちも背中を押してもらえると思う。具体的な方法を表現のヒントで示しており、美術の学習が苦手な生徒でも取り組みやすいのではないかと思った。「日本美術と世界の美術の歩み」では、社会科で習うような日本の近現代の作家の名前や作品名も多く取り上げられており、

他教科との関連にも配慮されていると思った。

Ｃ者は、最も身近で誰でも持っている道具であるスケッチブックに自由にスケッチすることから美術に対する取り組みを始め、個々の表現を自由に模索させる展開になっており、一人一人の発達の段階に配慮されていると思った。とても自由に美しさを学べる教科書だと思った。

教　育　長　発行者の教科書見本本の特長についてご意見をいただいた。

ここからは、委員の皆様からさらに確認したいこと、それから事務局に対する質問、それから各委員の意見を聞いてのさらなるご意見を伺いたいと思うがいかがか。

（質疑なし）

教　育　長　それでは、ここまでの議論を踏まえて、どの発行者の教科書がよいかご意見をいただき、１者に絞り込んでいきたいと思う。ご意見をお願いする。

山　田　委　員　Ａ者。

庄　司　委　員　Ｂ者。

長谷川　委　員　Ｂ者。

花　渕　委　員　Ｂ者。

川　又　委　員　Ｂ者。

後　藤　委　員　Ａ者。

教　育　長　まず、数字上はＢ者が４、Ａ者が２ということであるが、皆様のご意見を踏まえた上で、さらに何かご発言はあるか。

山　田　委　員　私はやはりＡ者が良いと思っていて、写真や映像について、詳しく記載があり、その撮り方も一つの芸術と認めているのがいい。記載されている漫画やアニメが最近のものが採用されていることがいいとは思った。

それから、風神や雷神の写真、２・３年生のゲルニカの配置の仕方、開いたときの見せ方が良く、ほかもそのような工夫がされているのだが、迫力が感じられて良いと思ったので、私はＡ者でお願いする。

教　育　長　庄司委員、いかがか。皆さんの意見を聞いた上でのさらにご意見があれば伺う。

庄　司　委　員　私はＢ者がいいと思うが、写真の掲載などでは、Ａ者、Ｂ者、Ｃ者それぞれに、いいところがあり、少し心が揺れる部分がある。やはり見開きで大きなページがあったり、原寸大の写真があったりするということはリアルに大きさを感じることができるので、そういうところが実際に表現としてあるＢ者がいいと思う。

長谷川　委　員　学校で美術という教科を学ぶという観点からすると、Ｂ者だと思う。

花　渕　委　員　どちらも確かにすばらしい教科書だということは間違いがないと思うが、子供たちへの先ほど教育長からあった対話的な学習という部分からいくと、Ｂ者のほうがその投げかけとしては、より一層対話的な学習にいざなっている表現が多いので、私はＢ者がいいと思う。

川　又　委　員　私はＢ者ということでお話をしたけれども、教科書の構成が順番どおりではなく、先生方が教えやすいような項目を選んで教えていくことができるような構成というところがとてもよいと思う。それから、Ｂ者の教科書は、基本的に２ページで１つの項目がまとめられており、非常に使いやすい。

後　藤　委　員　Ａ者の構成がいいと思い、作品鑑賞についてもＡ者の見せ方がとてもうまいと思いＡ者を推したのであるが、ただほかの教科書も勝り劣りなくよいものであったので、そこはたとえＢ者の教科書になったとしても、仙台市の子供たちは十分学習ができる

と思う。

教　育　長　皆さんのご意見、ご発言を総合しますと、Ｂ者がよかろうという話であるが、山田委員、よろしいか。

山田委員　大丈夫である。

教　育　長　総合的に考えるとＢ者でよろしいのではないかということであった。Ｂ者ということでよろしいか。

（異議なし）

教　育　長　Ｂ者が採択候補ということで、美術についてはご議論いただいた内容を採択理由として、事務局で整理の上、７月 26 日に最終的に決定したいと思う。

【道徳】

教　育　長　次に、道徳についての協議を行う。

事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いする。

教育指導課長　それでは、担当指導主事よりご説明する。

指導主事　中学校特別の教科道徳では、中学校学習指導要領第１章総則の第１の２の（２）に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

以上のことを目標としている。

協議会において取りまとめた中学校特別の教科道徳の全発行者の特長は、別添２の 11、12 ページにお示ししている。

主な特長については、まずＡ者は、「問いを立てよう」で与えられた問いに答えるだけでなく、自ら問いを立てて考え、話し合えるように工夫されているということである。

次に、Ｂ者は、付録にある心情円によって、考えた気持ちを円の色で視覚化して表現することができ、主体的・対話的で深い学びが実践できるように配慮されているということである。

次に、Ｃ者は、「深めよう」に複数の記述欄があり、自分の考えを形成し、自主的な学びを促しながら実践につなげられるように工夫されているということである。

次に、Ｄ者は、「ウェルビーイングカード」を用いることで、友達と考えを共有しやすくし、自主的に考えを深める学習が展開できるように工夫されているということである。

次に、Ｅ者は、「学びの道しるべ」では、道徳的価値を段階的に深めていく問いを示し、他者の考えに学びながら、多面的・多角的に捉え、自己の考えを深められるように工夫されているということである。

次に、Ｆ者は、別冊「道徳ノート」は、自分の考えをまとめ、他者から新たな気付きを得ながら学びを深めていける内容になっており、言語活動の充実に配慮されているということである。

次に、Ｇ者は、各学年に「マイプラス」があり、教材を通して学んだことを基にした話合いやロールプレイなどが設定され、言語活動の充実が図られるように工夫されているということである。

教　　育　　長　ただいまの事務局の説明について、何かご質問あるか。よろしいか。

（質疑なし）

教　　育　　長　それでは、各発行者の教科書見本本にご意見をいただきたく思う。また順番を変えて、今度は庄司委員からお願いする。

庄　司　委　員　Ａ者であるが、それぞれの教材がどの内容項目に対応しているのか明確に示しており、学習を進めやすいと感じた。学習の手引き、「考えよう」の問いでは、生き方について考えを深めることができると感じた。「問いを立てよう」では、自分で問いを立て、それを考える、話合いができるようになっており、自然な流れができているため大変よいと感じた。いじめに関するところでは、いじめを許さない心を持つように、学校生活の中での教材が各学年で掲載されており、考えを深められるような工夫があると感じた。

Ｂ者であるが、それぞれの教材タイトルに言葉が添えられており、学習のねらいとするところ、気づきや考えるところの視点が大変つかみやすくなっていると感じた。いじめ、命の尊さについてのユニットがあり、学校生活に合わせ、どの学年も同時期に取り組む工夫がある。また「道徳×防災」では、命を守ることの大切さを、立場の違う人の視点からで考えが深められるように工夫されていた。

Ｃ者であるが、全教材を４つの視点で分け、学習のねらいを大変分かりやすく示してあると感じた。３学年ともに命に関する教材が重要なテーマとして取り上げられていて、いじめ防止に関する教材、また多様性をテーマとする教材など、多角的な考え方ができるような工夫が感じられた。国際理解に関するものやＳＤＧｓに関する教材があるのも大変よいと思った。

Ｄ者は、学年の初めに何を学ぶのかが分かりやすく示されていて、どのように自分と向き合っていくのかに工夫があると感じた。人権については、ダイバーシティーやＬＧＢＴなどの教材も掲載し、認識を深めたりできるような工夫があった。「ウェルビーイングカード」の活用で、対話しやすい環境ができるように工夫があり良いと思った。

Ｅ者は、全ての教材で、導入部の問いでねらいが示され、「学びの道しるべ」では、考えを深めることができるように工夫があると思った。いじめについては、３年間繰り返し掲載があり、継続することで考えを深めていくことができるような工夫があると感じた。いじめ防止、命の貴さ、人との関わり方というところでは、関連した大きな捉え方をしており、学びがより深められるようになっていると思った。

Ｆ者は、それぞれに学びのキーワードを示すことで、大変取り組みやすい工夫があると感じた。いじめに関しては、各学年で繰り返し掲載され、いじめだけではなく多様性の尊重に関する内容など、人権尊重に関わる内容も取り上げられている。別冊に「道徳ノート」があり、自分の考えをまとめたり、友達の意見を聞いて記入したり、考え方を広げる工夫があってよいと思った。

最後にＧ者であるが、重要課題の４項目に分けられている。ねらいとする内容の理解が深まるよう大変工夫されていると感じた。いじめ防止や命の尊重などの教材が、各学年で複数取り上げられている。いじめを許さない、多様性を尊重するといった教材では、人権を尊重する心や思いやる心を育むことができるよう工夫がされていると感じた。

長谷川　委　員　Ａ者は、最も心理学の知見が反映された内容だと思う。道徳の学習の始め方として、

話し合う、読む、演じる、書く、このパターンもそうであるし、例えば感情をマネジメントしようというものは、今世界的に主流の「ＳＥＬ」という感情と社会性の発達を取り入れたのだと思う。最新の道徳性の発達を促す工夫がたくさんあると思う。

Ｂ者については、内容項目別に４つの視点に分けた一覧表がとても学びやすい。Ｂ者の最大の特長は、「つぶやき」や巻末の心情円だと思う。このようなツールを使うことによって、主体的・対話的な学びが実現できると思う。また、巻頭に「道徳の時間はこんな時間に」と紹介されているのも、見通しを持って授業に臨むことができると思う。

Ｃ者の最大の特長は国際性だと思う。他者理解であるとか、多様性の理解というのは、どの教科書も扱っているが、ほとんどが障害者とか、身近な世界、身近な環境の中での自分と異なる人というのが多いのだが、恐らく１年生のときから国際理解をダイレクトに扱っているのはＣ者だけだと思う。また、その多様性も、ＬＧＢＴＱなど、現代的な問題を扱っているという点で特長があると思う。

Ｄ者の特長は、ウェルビーイングの向上を重視していて、「ウェルビーイングカード」を使用して表現したり話し合ったりすることができるようになっているところだと思う。

Ｅ者については、構造化された３つの問いというのが特長だと思う。このような学びの道しるべを示すことで、多面的に考えて、自分を見詰めることができると思う。

Ｆ者については、別冊ノートが特長的だと思う。これで、生徒自身が考え、議論することが可能になると思う。

Ｇ者については、内容項目に関する主教材と重点的に考えさせたいテーマとして、いじめ、情報モラル、共生社会、キャリアなどが扱われていて、年間指導計画に適合させて学べる構成になっていると思う。

花　渕　委　員　まず、Ａ者であるが、教材ごとに学習の手引きが示されていて、学びのテーマとして、何を考えて何を学ぶのかが明示されているのがいいと思った。

Ｂ者については、各学年にいじめ防止と生命の尊重に関する教材が３つずつ入っていて、命の大切さや、思いやり、共生の心情を深めるという意味で、非常にいいと思った。

Ｃ者については、「よりよく生きるための 22 の鍵」として、内容項目が４つの視点で整理され、関連のある内容が連続して配置されており、学習効果が上がるようになっていると思った。

Ｄ者については、いじめ防止について、直接的ないじめと間接的ないじめを分けて教材を取り上げていて、物事を多面的に考えられるように配慮がなされていると思った。

Ｅ者については、全教材の導入の問いで授業への見通しを持たせ、「学びの道しるべ」の構造化された３つの問いで考えを深める工夫がされていると思った。

Ｆ者については、気づく、考える・議論する・深める、見つめる・生かすのスリーステップで、人としての生き方について考えを深める学習が進められるように工夫されていると思った。

Ｇ者については、役割演技や問題解決的な学習、体験的な学習などを実現する「マイプラス」が入っていて、これは様々な立場で想像したり考えたりすることができるように配慮がされていると思った。

川　又　委　員　Ａ者についてであるが、巻末の「まなびの記録」によって、年度の初めから終わりまでの自身の考え方の変化を記録し、自分の考え方を深められるようにしているところが特長かと思う。また、教科書の始めでは、「道徳で学ぶ 22 のキーワード」、「道徳　道案内」という見開きのページがあり、１年間の勉強の内容を俯瞰できるように工夫されている。

Ｂ者であるが、道徳というものの考え方の現代的な広がりを盛り込んでおり、具体的には、「道徳×防災」「道徳×情報モラル」「道徳×ＳＤＧｓ」というような考え方を盛り込み、道徳というものを現代的な意味で広く考えようという工夫がある。また、小学校の道徳の教材を再掲載しているということで、年齢に従って、考え方、感じ方、内省の仕方を振り返ることができるようになっている。

Ｃ者であるが、東北地域の話題も数多く取り上げられている。東北地域に関連する人物、災害、様々なエピソードが取り上げられている。それに加え、国際理解として、ＳＤＧｓについての教材が多数あり、多様な題材を通して学習者の考え方が深められるようになっている。また、Ｃ者では、江戸時代、明治、昭和、平成、令和における様々な偉人や、いろいろと努力をした方々など、人物を取り上げていることが特長かと思う。

次に、Ｄ者は内容として、伝統、文化、地域性、歴史上の人物などの題材が広く取り上げられており、道徳教育を幅広く捉えていると思う。巻末付録に「ウェルビーイングカード」を掲載し、他者との対応を自然に促し内省を深めることができるようになっている。現代的な課題であるファクトチェック、ＳＮＳ、いじめ、生成ＡＩ、詐欺に関連した題材も幅広く取り上げている。

Ｅ者であるが、道徳１、２、３、それぞれの始め方が非常に緩やかで分かりやすくなっており、生徒が道徳という教科に入りやすいように工夫されている。いろいろな内容の表現という意味では、生徒の興味・関心を引くような漫画、イラストを多数用いており、読むことよりも、考えさせ、話し合うことに重点を置いた教科書だと思った。

Ｆ者では、現代的な課題である、いじめ、情報社会の功罪、環境、安全などを取り上げて、多様な道徳的な観点を取り上げている。教科書に加えて、「道徳ノート」があり、これにより指導と学習が明確化されると思った。

Ｇ者では教科書における記述の順番での学習のほかに、テーマ別に学習項目をまとめ、分類したものがあり、様々な学び方が可能な構成になっている。それから、「Ｔｈｉｎｋｉｎｇ」「マイプラス」があり、学習内容を様々な角度から広く考察するという構成になっている。

後　藤　委　員　Ａ者は、自ら問いを立てさせ主体的に学ばせる姿勢がよいと思った。２学年の巻末の付録に「泣いた赤おに」を載せており、小学校で取り上げられていることにも触れており、発達の系統性にも配慮されていると思う。話合い活動を促すページでは、吹き出しで意見を載せている場面が多くあり、なかなか自分の意見を出せない生徒にとっては学習を進めやすくなるのではないかと思った。

Ｂ者は、教材の終わりに、「考えよう」「見つめよう」で、自己について考えを深めるような問い掛けがある。その中で、「見つめよう」の問い掛けが、自分ならどうするか考えようという言葉や、自分に何ができるのだろうという直接的な言葉を使用するなどダイレクトに聞かれることで、子供は何をしたらいいのかを考えやすいだろ

うと思った。また、その問い掛けの仕方が上手だと思った。「Ｐｌｕｓ」はテーマを絞ってまとめてあり、伝えたいことが明確で分かりやすいと思った。

Ｃ者は、目次の後ろのページに、「よりよく生きるための 22 の鍵」が配置されており、これで一つ一つの題材から何を学び取ればいいかが分かりやすく示されていると思った。目標を踏まえて、学習の目的やねらいが明確に伝わると思う。

Ｄ者は、教科書に自分の意見を書き込めるメモや余白があり、教科書へ直接書き込み学習ができるような工夫があると思った。「古今東西放談」というページでは、１学年が自由、２学年が幸福、３学年で愛について思索を深めており、「ウェルビーイングカード」を使った学習への導きなど、主体的な学習態度の育成に配慮されていると思った。

Ｅ者は、「学びの道しるべ」で３つの問い掛けがあり、この３つの問い掛けに、順番に答えていくと、問題解決的な学習ができるように工夫されていると思った。この中で、ルールとマナーの違いについての学習があったが、ルールとマナーの違いについてはこれからも必要な題材だと思うので、すばらしい視点だと思った。

Ｆ者は、１年生の導入部で、生徒に人気のある漫画から入っており、中学生に道徳への苦手意識を持たせないような配慮が伺えた。「学びを深めよう」では、言語活動が展開されるように配慮されており、「視野を広げて」では発展的な学習につながるように配慮されていた。「道徳ノート」に書くことによって、自主的、自発的な学習ができるとともに、自分の心を見詰めることができるのでとてもいいと思う。深い学びができると思う。

Ｇ者は、豊富な題材で読み物としても読み応えがあった。羽生結弦さんや、宮城県女川町の女川いのちの石碑について触れた題材もあり、仙台市の教育に資するものと言えると思う。「マイプラス」で話合いやロールプレイなどができるようになっており、言語活動の充実が図られるとともに、学びを深めることもできると思った。

山　田　委　員　どの教科書も道徳の学び方の説明が最初に載っているのだが、Ａ者は、最初に、「答えは１つではない」「自分と向き合い、他者と向き合う」「学びをつなげる」と学びの順番が書いてあるところが、他者とは少し異なりよいと思った。それから、各章の後ろにコラムがあり、様々な情報が書いてあるが、ここのページは横書きになっていて、縦書きから横書きに変わることで漫画や説明、写真がついていても読みやすいと思う。同じく、「チャレンジ」にも、自分の考えをまとめて発表することや、グループでディスカッションする、また演じてみるなどがあり、同じく横書きになっていて、他のページと書き方を変えて見やすくしていると思った。

次にＢ者であるが、最初に道徳の学び方があり、学習のテーマが各ページに載せられ、最後に「考えよう」「見つめよう」という設問で自分の考えをまとめる流れになっていてる。「Ｐｌｕｓ」には、いろいろなコラムが載っていて、関係する情報を得ることができるようにはなっている。

Ｃ者も、同じ流れなのだが、こちらは「見つけよう」「考えよう」「話し合おう」「生き方につなげよう」という順番になっていて、最後に自分の考えをまとめるという流れであるが、記述式で振り返り整理する形になっている。また、「クローズアップ」に関連したコラムが載っている。

Ｄ者は、大きな章の最初に４コマ漫画があり、その章で学ぶ内容のイメージが大体つかめるようになっている。それから、「ウェルビーイングカード」が巻末にあり、

教材を読んで自分が大事だと感じたことをカードの言葉を見て選ぶ、自分の考えをまとめてグループで話し合うという形になっているのが特長だと思った。

Ｅ者は、先ほどから出ている「学びの道しるべ」に設問があり、自分の考えをまとめていく流れになっている。それから、「ひろば」に様々なコラムが載っていて、そこで関係する一歩進んだ考え方ややり方が掲載されており、グループでの活動ができるようになっているのが特長だと思った。

それから、Ｆ者は、「視野を広げて」が各章の後ろにあり、道徳科と他の教科とのつながりや、視野を広げる情報が掲載されている。ここも横書きで本文と区別されていて読みやすい。別冊「道徳ノート」があり、章ごとに自分の考えを整理してまとめられることが特長だと思った。

最後に、Ｇ者は、「Ｔｈｉｎｋｉｎｇ」というページがあり、関連するコラムが書かれている。また、同じように、最後に自分の考えをまとめる問いになっている。

教　　育　　長　それでは、今ほど皆様から各発行者の特長についてご意見をいただいた。今回、道徳は７者あるため、まずは３者に絞り込んでいきたいと思う。それぞれの委員からどの発行者かを端的に話していただければと思う。それでは、庄司委員からお願いする。

庄　司　委　員　Ａ者、Ｂ者、Ｆ者。

長谷川　委　員　Ｂ者、Ｃ者、Ｅ者。

花　渕　委　員　Ａ者、Ｂ者、Ｆ者。

川　又　委　員　Ａ者、Ｂ者、Ｅ者。

後　藤　委　員　Ｂ者、Ｅ者、Ｆ者。

山　田　委　員　Ａ者、Ｂ者、Ｆ者。

教　　育　　長　集計すると、Ａ者が４、Ｂ者が６、Ｃ者が１、Ｄ者がゼロ、Ｅ者が３、Ｆ者が４、Ｇ者がゼロである。上位となるのは、Ｂ者が６、Ａ者が４、同じくＦ者が４である。Ｂ者、Ａ者、Ｆ者で議論を深めてまいりたいと思うが、よろしいか。

（異議なし）

教　　育　　長　それでは、Ｂ者、Ａ者、Ｆ者で進めたいと思うが、まずはこの３者について確認したいこと、それからご質問、ご意見あるか。

（質疑なし）

教　　育　　長　それでは、これまでの議論を踏まえて、どの発行者の教科書がよいかご意見をいただき、１者に絞り込んでいきたいと思う。ご意見をお願いする。まず、庄司委員からお願いする。

庄　司　委　員　私はＢ者を推したいと思う。この３者は、いずれにおいても、いじめの問題について、丁寧に取り上げてあるのだが、いじめ防止に加えて防災教育などが最も大変充実していると感じた。Ｂ者でお願いしたい。

長谷川　委　員　総合的に生徒の道徳的な思考をサポートする工夫がたくさんあると感じたので、Ｂ者を推薦したいと思う。

花　渕　委　員　私もＢ者がいいと思う。

川　又　委　員　Ｂ者を推したいと思う。「道徳×防災」「道徳×情報モラル」「道徳×ＳＤＧｓ」という現代的な考え方や、道徳の広がりが強調されていることから、Ｂ者ということでお願いする。

後　藤　委　員　私はＦ者でお願いする。

山　田　委　員　なかなか甲乙つけ難いのだが、私はＡ者でお願いする。

教　　育　　長　それでは、Ｂ者が４人の委員から支持を受けて、Ａ者が１名の委員から、Ｆ者がお一方となっている。こうした状況の中で、これまでの議論を踏まえて、ここで何かご発言あるか。

特になければ、これで少し議論を深めてまいりたいと思う。

それでは、もう少しご意見をいただければと思う。

庄　司　委　員　同じことを言うようになるが、いじめ防止に関しては、どの発行者もとても丁寧に取り組んでいるところが感じられる。ただ、防災教育に関しては、結構差があると思う。ほかの地域であれば違うかもしれないのだが、仙台市は、やはり震災教育、防災教育が大切だと感じていることから、充実していると感じたＢ者でお願いする。

長谷川　委　員　それほど付け加えることもないのであるが、どの教科書も特長があり、それぞれにいいところがあり、先ほど述べたように、例えばＣ者は国際性がとてもすばらしいと思うし、様々な特長がある中で、Ｂ者は一番広くオーソドックスに安心して使えるなど、様々な観点から思ったため、Ｂ者が良いと思った。

花　渕　委　員　私は、Ｂ者の巻末に付いている「自分の学びをふり返ろう」を子供たちが使うことで、子供たちの振り返りにもなるのだが、道徳の評価という意味でも先生方が実際指導する際に、評価の助けになるのではないかと思う。内容はもちろんなのだが、「自分の学びをふり返ろう」における中身はもちろんそうなのだが、「自分の学びをふり返ろう」というのがあるＢ者はとてもいいのではないかと思う。

川　又　委　員　Ｂ者ということでお話をしたが、これまで説明した道徳における現代的な課題がはっきりと強調されていることと、実際の紙面構成の点では、文章が比較的少なくなっており、相対的に写真や漫画、イラスト、グラフが多くなっており、視覚的な説明を強調しているということ、その上で生徒に考えさせる構成になっていると思うので、Ｂ者ということである。

後　藤　委　員　Ｆ者がいいと思ったのは、やはり「学びを深めよう」で言語活動が展開され、「視野を広げて」で発展的な学習につなげていくところが上手にできていると思ったからであるのだが、私は３者を選ぶときに、Ｂ者、Ｅ者、Ｆ者だったので、Ｂ者もＦ者もどちらもすばらしい教科書だと思っている。Ｂ者を選んでいただいても何ら問題はないと思う。

山　田　委　員　私も同じで、私も選んだ３者はＡ者、Ｂ者、Ｆ者だったので、その３つはどれを選んでいただいても、多分大きな差はないかとは思っている。Ｂ者でもよいと思う。

教　　育　　長　皆様のご意見から、テーマが非常に現代的であり、総合的に生徒に対するサポートができる、学校現場において評価というものがしやすいのではないかというＢ者に対しての優位な評価があったものと私としても認識している。Ｂ者を採択の候補としてもよろしいか。

（異議なし）

教　　育　　長　それでは、道徳についてはＢ者を採択候補として、ご議論いただいた内容を採択理由として、事務局で整理の上、７月 26 日に最終的に決定したいと思う。

長丁場であったが、以上で本日の協議を終了する。

次回、７月 10 日は中学校教科書の地理、それから地図、歴史、公民の採択についての協議を行う。

以上をもって本日の臨時教育委員会を閉会する。

４　閉　　会